

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0173000241, 社会福祉法人じねん, グループホーム康陽(康ホーム), 空知郡中富良野町東町7番1号, 平成26年8月20日, 平成26年10月29日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホーム康陽の理念「のびのび、にこにこ、暖かく、ゆっくり、いっしょに、楽しく、長寿喜楽、敬老奉仕」に従った介護をスタッフ一同で目指している所。
・利用者さんへの声掛けの大きさに気をつける。
・出来る事、出来ない事の見極めをし、相手のペースに合わせて待つこと。
・天気の良い時は体操、外気浴、日光浴をする。
・理念の他に"グループホーム20ヶ条"を念頭に努力し、自分達のホームと意識し、自分が入りたいと思える施設づくりをしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0173000241-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 社会福祉法人北海道社会福祉協議会, 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地, 平成26年9月19日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の周辺には農村地域が広がっており、近隣には学校や商店もある。事業所のリビングや居室からは十勝連峰などが一望でき、四季折々の景観が楽しめる。広い敷地を有しており、建物は木造平屋造りでリビングの大きな窓から爽やかな風が流れ込んでおり、天窓からの自然な採光を取り入れている。また、キッチン・廊下・浴室周り トイレなどが広く使いやすい造りとなっている。毎朝唱和している理念と事業所独自の「介護20ヶ条」に沿ったケアを心がけ、利用者自身の役割と充実感を持てるような生活を支援している。また、町との協力関係ができており、分からないことがあればその都度、町の担当者に相談しており、運営推進会議にも福祉課職員が 毎回出席するなど連携は良好である。防災意識も高く、消防署より「火災予防の徹底と防火意識の向上」で表彰状を授与されている。利用者は町主催の文化祭や敬老会などに参加し、地域の一員としての活動もしている。納涼祭やクリスマス会では模擬店を出したり、利用者のカラオケや職員の余興を披露するなどして地域の人々とのかわりを深めている。食事前には口腔ケア体操を全員で行い、口腔環境を整えている。また、車椅子使用者は食卓椅子に移乗して食事が楽しめるよう支援している。職員の言葉かけや態度は丁寧で優しく、利用者のペースで過ごせるよう支援している。また、職員間のコミュニケーションも良好で定着率も高い。想定されるトラブルとその対処が「こんな時どうする、ちょっと見る」シートにイラストを交え解り易く図解されており、職員の不安緩和に役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation criteria and results for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、毎朝のミーティングで唱和し理念を共有している。週1回独自の20ヶ条も唱和している。	理念を毎朝のミーティングで唱和し、共有している。また事業所独自の「介護20ヶ条」に沿って行動し、理念の実践に努めている。利用者が役割と充実感を持ち自立した楽しい生活を送り、その人らしい暮らしの自己実現を図れるよう日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事で納涼祭、クリスマス会に地域の方に参加して頂いている。地域の行事に積極的に参加し交流している。	利用者が地域との関係を持ちながら生活を続けられるよう、納涼祭やクリスマス会などの行事に地域住民を招待したり、お手伝いとして参加を得るなど、地域と事業所の信頼関係を築いている。またカラオケや踊りなどのボランティアが来訪しており、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事に参加して頂き、地域の人々と交流し認知症の理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関係者が集まり、運営推進会議を開催し情報の共有や意見交換し、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回実施している運営推進会議では、事業所における利用者の状況、サービス提供や日常的な取り組みなどに関して報告している。出席者から事業所への要望や助言などを受けて、サービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の状況やいろいろな施設の取り組みは市町村担当者と常に連絡を取り合い協力関係を築いている。	分からない事などがあれば、その都度町の担当者へ相談している。運営推進会議には毎回町職員の参加を得ている。また事業所の各種行事にも参加を得る中で、町担当者へ積極的な情報提供や状況報告を行うなどして、協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者はゆっくと安心して生活しており、身体拘束せずに暮らしている。	全職員は事業所のマニュアルや内部研修などで身体拘束をしないケアや虐待防止について学び、利用者が受ける心理的な弊害を認識し共有している。理念の一つでもある「のびのび、にこにこ、暖かく。」に基づく安全な生活を支援している。また、契約書に身体拘束をしない事を明記しており、入居時に利用者、家族に十分説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングで虐待防止について常に話し合い、利用者にとって楽しく生活できる環境になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の所、成年後見制度は利用する事はないが、いろいろな制度も今後変化する事もあり、常に学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はわかりやすい様に説明、家族の不安、疑問又は要望を伺い、納得されて契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日頃から要望、希望をお話できる関係を築いており、ご家族へも面会時に気軽に職員にいろいろたずねる関係である。	法人では年4回広報誌「グループホームだより」を発行し、事業所では2ヶ月ごとに発行している「くらし」にて行事や暮らしぶりなど、多くの情報を家族に伝えている。家族から出された意見、要望は連絡日誌などに記録し、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に総合施設長が職員の意見を聞き、運営に反映している。	管理者は日常の業務の合間に、職員の意見などを聞くようにしている。また年に1回、総合施設長による個人面談の機会を確保し、様々な意見を聴取し、職員が仕事にやりがいを持てるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境も良好で職員もやりがいを持って仕事をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修と学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近郊のグループホームや特別老人ホームの行事に参加して交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活している中での利用者の変化や不安な事に気づいたら、職員が話しあい、利用者にとって安心して生活できる様に細かく対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時は家族より希望や生活する上での利用者の不安をきちんと伺い、安心して生活して頂ける様に対応し信頼関係を築いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の所、他のサービスを利用するケースがない。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中でできるお手伝いをして頂いたり、本人の希望する楽しみ事を一緒に楽しんだりしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事に参加して頂いたり、面会時には利用者の日常生活状況をお話したりと信頼関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会でき、ご家族と一緒に外出、外泊、買い物、墓参り等に行っている。	買い物などの機会を利用して周辺のドライブなど、利用者の想いを尊重した支援をしている。また、外出やお墓参りに行くなど、家族と過ごす時間と機会の確保に取り組んでいる。家族などの来訪時には、サンルームにてゆっくり過ごせるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内にゆったりと座れる場所があり、利用者同士が楽しく過ごせる環境であり、となりのホームの利用者とも一緒に楽しめている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した家族も施設の行事に参加して頂いたりと気軽に寄って頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を大切にその人の「できる事」「望む事」を見きわめて楽しく生活できる様にしている。	日々の生活から利用者の思いや意向の把握に努めている。また家族から伺うなどして利用者本位のサービスを提供し、理念でもある「ゆっくり、いっしょに、楽しく。」過ごせるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員がきちんと利用者の生活歴や暮らし方を把握して、日々を楽しめる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の体調を見きわめて無理のない様、又はできる事は楽しくと利用者に合わせて生活している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行って全体ミーティングで話し合う事で、利用者にとってより良く暮らせる様に意見交換し、短期、長期の計画を作成し入退院時の体調に応じて対応している。	日々の介護記録やアセスメントで気づいた点などを職員間で討議しながら、利用者と家族の意向を取り入れ介護計画を作成している。また入退院の際には医師、看護師の意見を聞きながら、その都度対応し、検討・プランの修正を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌記録、モニタリング、連絡日誌等、情報が共有できる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望のお店に好きな物を買物したり、天気の良い日はドライブにもでかけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練、救命救急講習会、AED設置、ボランティアの協力を得て、行事の参加等楽しめる支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に1度訪問診療を受けたり、家族の希望の医療機関へ受診できている。	利用以前の一人ひとりの受診状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関に受診できるよう支援している。通院は基本的に職員が対応し、診療内容を確認して家族に報告している。また町立病院の訪問診療を毎月受け、健康管理の支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員は勤務していないが、地域の医療機関と連携をし、いつでも相談できる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関と常に連携がとれており、情報交換がスムーズにできている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、ご家族、地域の関係者とも話し合い、医療機関との連絡を取り対応、又研修にも参加している。	医療連携体制の確保し、重度化した場合の対応や看取りに関する指針を利用者や家族に説明し、意向を把握している。現時点では該当事例はないが、訪問診療など関係機関との話し合いを行い、その都度対応を確認することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防職員による緊急時対応の訓練やAEDも設置し全職員が対応できる様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防の指導のもと、地域住民の方、家族も参加して頂き避難訓練を行い、防災マニュアル作成し、研修を行っている。	利用者が安全な場所に避難できることに重点を置き、夜間を想定した避難訓練を消防署・地域住民・家族会の参加を得て、年2回実施している。拡声器や大きめの懐中電灯を配備しており、家族には災害時の避難場所についても周知している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重し、言葉遣いも十分に気をつけている。	理念の一つでもある「敬老奉仕」を大切にしている。トイレ介助の際には、他の利用者に気づかれないように行っている。全職員はプライバシーの確保に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がその日にしたい事(散歩、掃除、食器拭き等)を見きわめて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の表情や体調をみながら、自分の好きな事をしたり自由に過ごせる時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服、お化粧品が自由にできる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器拭き、下膳もお手伝いして頂けている。食材の下ごしらえや野菜の皮むき、時には味見をして頂いたり、一緒に行っている。	食事は地域住民からいただいた季節の野菜を取り入れ臨機応変に提供している。また色合いや盛り付けを工夫して楽しい食事ができるよう努めている。野外でのジンギスカンや月一回の出前など利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し健康管理に気配りしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、緑茶でのうがい、歯磨きや舌磨きも対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握して、タイミングをみてトイレ誘導を行っている。	職員は排泄チェック表に記入し、利用者一人ひとりの習慣や排泄パターンを把握しながら支援している。また利用者の状況にあわせた対応により、オムツを使用しないケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をできるだけ多く摂取して頂いたり、野菜を多く取り入れた食事にしたりとバランスを考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のペースに合わせた入浴をして頂けている。ゆっくりと楽しんで入浴ができています。	広い浴室では浴槽の位置を工夫して、利用者が左右どちらからでも浴槽に入れるよう支援している。また利用者の恐怖心や負担軽減となるようスノコなどを活用し、スムーズで安全な入浴ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や体力に合わせて休息しており、気候にあった寝具も使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は医師の指導のもと、きちんと決められた薬を服用し体調管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞をみたり、パズルをされたり、居室でゆっくりと過ごす時間を設けたりと、それぞれにあった気分転換を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見外出やお買い物、天気の良い日は毎日外での体操や畑での野菜収穫、草取り等楽しんで外へ出かけられている。	花見など季節に合わせた行事を沢山企画し、楽しくいきいきと過ごせるよう工夫している。また町主催の文化祭へ行くなど地域との関係性を育む内容の外出支援を行っている。事業所の食材の買い物、花壇の手入れ、庭での外気浴など戸外へ出る機会が多くなるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向もあり、ホームでの管理の方も多いが、希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にやりとりできる様になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはソファを置いて、利用者は好きな場所で過ごす事ができる。季節にあった装飾をしたり、お花を飾ったりと過ごしやすい工夫をしている。	天窓から自然な採光を取り入れたリビングは十分なスペースがあり、ソファなどのレイアウトに工夫しており、利用者それぞれが居心地良い生活空間となっている。サンルームには行事や外出時の写真などを飾り、家族や知人の来訪時などゆったりと語らえる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたり、サンルームを利用したりと、自由に好きな時に利用できる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、写真、仏壇、好きなお花、TV等なじみの物を置く事で、安心して居室で過ごすことができる。	それぞれの居室には洗面台やテーブルが備えてあり、整頓されている。利用者が入居前の習慣や生活を継続できるよう、使い慣れたソファ、タンス、家電製品や仏壇などを持ち込み、その人らしく落ち着いて過ごせる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器拭き、ホール内掃除、テーブル拭き、たたみ物等、好きなお手伝いを自由に行っている。		